地層処分展示車「ジオ・ラボ号」の概要について

2021.10.29

原子力発電環境整備機構

NUMO
原子力発電環境整備機構

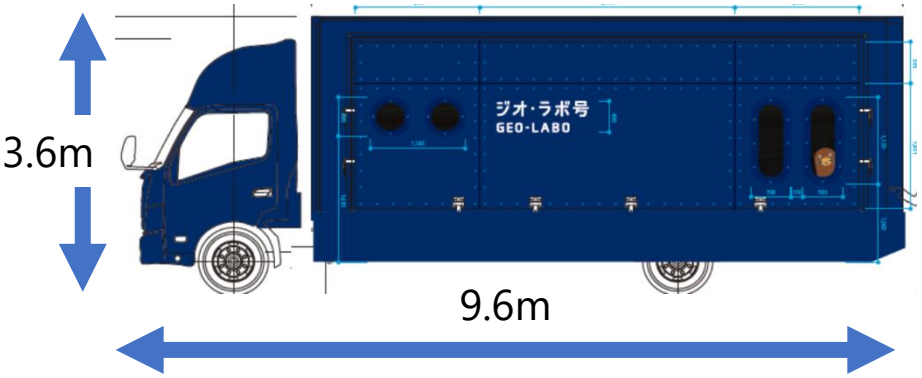
ジオ・ラボ号の展示コンセプトと仕様

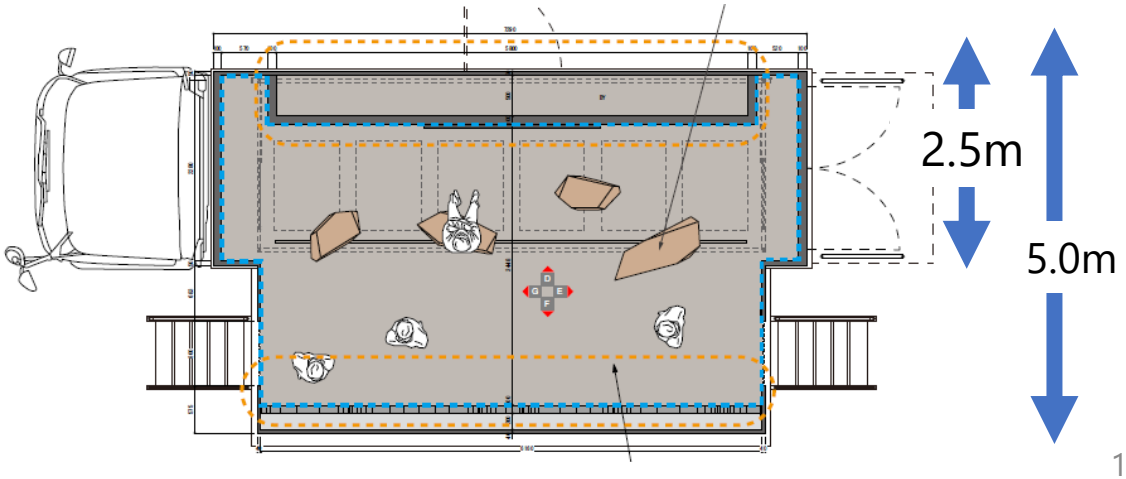
【展示コンセプト】
最終処分場とはどういうものか、その長期的な安全性が、展示をご覧になった方に直感的に伝えられること

①「地下300m」は、私たちの暮らしから十分に離れた場所であること
②「深い地層では物質は長い間とどまる」という特性があること
③「高い技術力で構築された施設（処分場）」をつくり処分されること
⇒①③をデジタル映像で、②は壁面展示で伝えています。

【仕様】

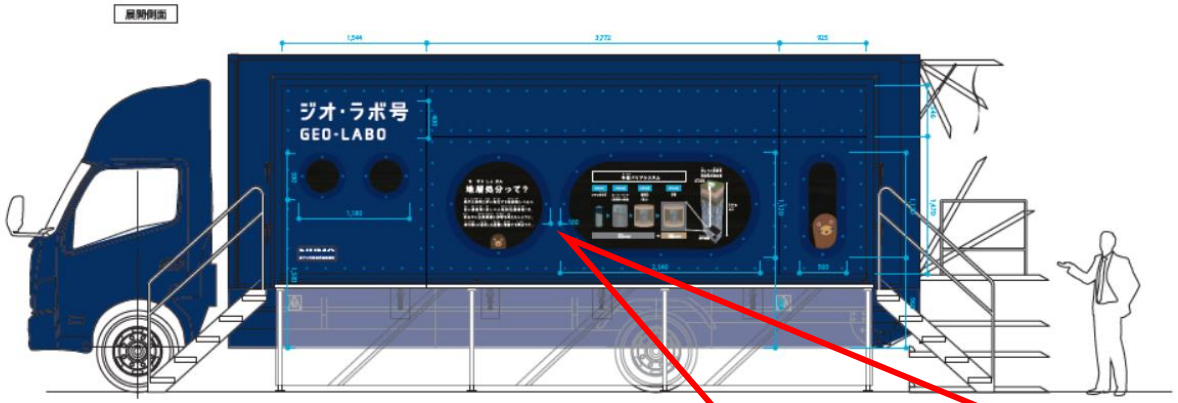
全長	約	**9.6**	m
全幅	約	**2.5**	m（通常時）
	約	**5.0**	m（展開時）
高さ	約	**3.6**	m
重さ	約	**13**	t

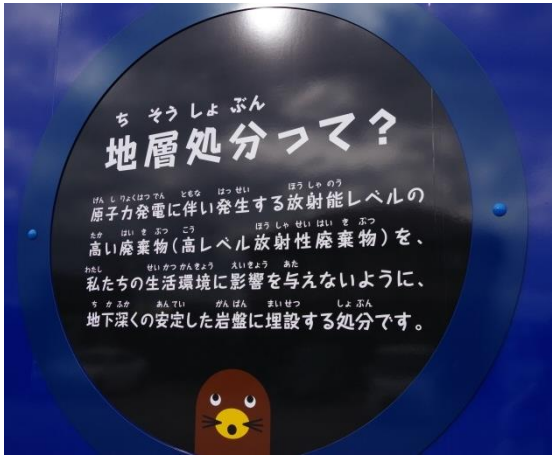


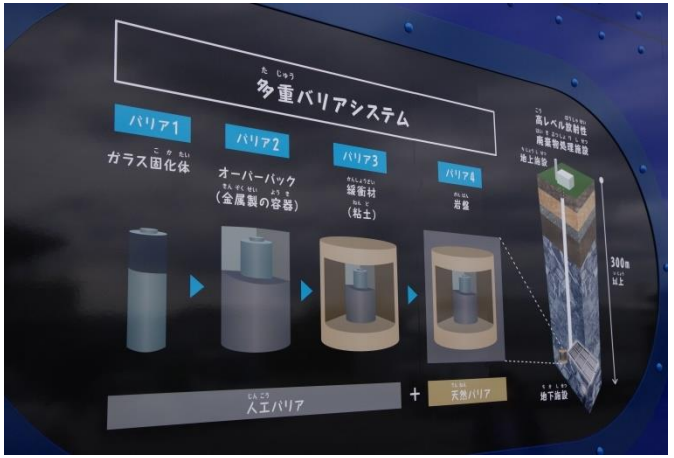


ジオ・ラボ号の外観

名　称：　ジオ・ラボ号（GEO－LABO）
高い技術で作られる処分場を体験できる展示車であることをイメージして命名。
NUMOのシンボルカラーである濃紺を基調としたボディーカラー。





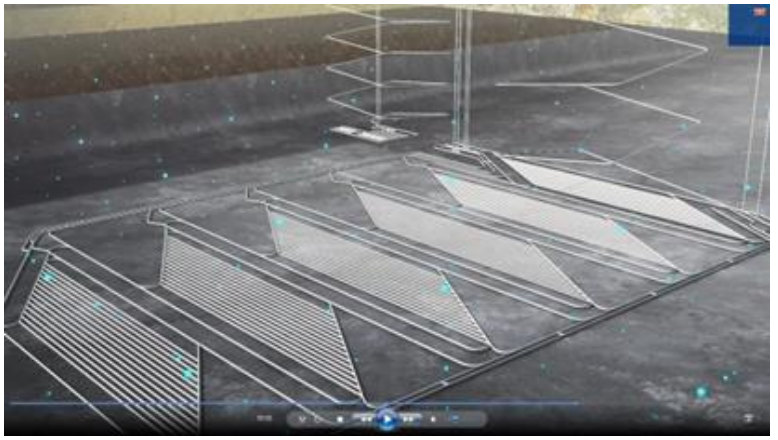


ジオ・ラボ号の内部

地下深くの地層の特性をお伝えするため、地層をイメージしたデザイン。間接照明と調光機能を活用することで、車内展示への没入感を演出。大型ディスプレイによるデジタル映像と壁面展示で構成。

デジタル映像

地表から300m以上深い場所に高い技術で作られる処分場のイメージを98インチの大型ディスプレイでリアルに体感できるデジタル映像。（上映時間：約3分）



壁面展示（地下の特性）

地層処分の考え方や地下深部の特性を説明した壁面展示。新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮しタッチレスな展示。また、小型ディスプレイでは、文献調査の進捗状況や新型コロナウイルス対策ポリシーなどの情報を発信。